

作成日 2015年 06月 01日
改訂日 2026年 09月 10日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	真空ポンプオイル
製品コード	VP005(150mL)、VP180(200mL)、VP083(300mL)
会社名	アサダ株式会社
住所	愛知県名古屋市中区上飯田西町3-60
担当部門	営業本部
電話番号	052-911-7165
FAX番号	052-914-2062
メールアドレス	sales@asada.co.jp
緊急連絡電話番号	052-911-7165（月曜日から金曜日の8:30～17:00）
推奨用途	真空ポンプ用潤滑油

2. 危険有害性の要約

GHS分類	「区分に該当しない」、「分類できない」は省略
重要危険有害性及び影響	区分に該当しない
GHSラベル表示	
絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	
安全対策	なし
応急措置	なし
保管	なし
廃棄	なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名		石油系炭化水素	3-(3',5'-ジ- <i>t</i> -ブチル-4'-ヒドロキシフェニル)プロピオン酸 n -オクタデシル
別名		-	抗酸化剤1076
化学特性（化学式）		C _n H _m	C ₃₅ H ₆₂ O ₃
成分及び含有量		≥98質量%	1-2質量%
CAS No.		64742-54-7	2082-79-3
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	化審法	-	3-1737
	安衛法	-	-

4. 応急処置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
身体を毛布などで覆い、保温して安静を保ち、医療処置を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。すぐに石鹼と大量の水で洗淨すること。

眼に入った場合

皮膚刺激または発疹が生じた場合は医療処置を受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗淨を続けること。
刺激が続く場合は医療処置を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないで、医療処置を受けること。
口の中が汚染されている場合には、水で充分に洗う。

急性症状及び遅発性症状の 応急措置をする者の保護

目に入ると炎症を起こす可能性がある。
ミストを吸入すると肺炎や呼吸器刺激や皮膚刺激を引き起こす可能性
がある。
皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
誤飲した場合、下痢、嘔吐する可能性がある。

5. 火災時の措置

適切な消化剤

霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消化剤が有効である。

使ってはならない消化剤

棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特定の危険有害性

一酸化炭素・硫黄化合物・その他正体不明の有機化合物や無機化合物
がオイルに混合した場合、オイルが燃焼する恐れがある。
燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を絶つ。周囲の設備等に散水して冷却する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。

消火を行う者の特別な保護 及び予防処置

消火作業は保護メガネ、保護衣、状況によっては呼吸保護具を着用
して風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項
保護具及び緊急時措置

皮膚に触れたり眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。
ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
漏出した場所の周辺に、関係者以外の立入りを禁止する。
風上から作業して、風下の人を待避させる。
屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

環境に対する注意事項

土壌汚染、水質汚濁に繋がるので可能な限り回収する。河川・下水道などに排出されないよう注意する。環境中に放出を避けること。

回収・中和
封じ込め及び浄化の方法・機材

漏えい物を密閉できる容器に回収し、後で廃棄処理すること
周囲の着火源を取り除く。
少量の場合、土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、更にウエスなどで完全に拭き取る。
大量の場合、盛土で囲って拡散防止をはかってから、掃き集めて空容器に回収後、安全な場所にて処理する。処理後は大量の水で洗い流す。この場合、濃厚排水が河川等の公共水路に流入しないように注意する。
海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合は国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）関係箇所に通報し応援を求める。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

指定数量以上の量を取扱う場合は、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。火花、炎、高温体等との接触を避けると共に、みだりに蒸気を発散させないこと
皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。
静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
危険物が残存している機械設備などを修理又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。
室内で作業を行う場合は、十分な換気を行う。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと

安全取扱い注意事項

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触はしないよう注意する。

保管

技術的対策

保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
容器は必ず密栓する。

安全な保管条件

危険物の表示をして保管する。
換気の良い場所に保管する。

混触禁止物質

直射日光を避け保管する。
酸化剤から離して保管する。
施錠してから保管すること
強酸化剤

8. ばく露防止および保護措置

化学名		石油系炭化水素	3-(3',5'-ジ- <i>t</i> -ブチル-4'-ヒドロキシフェニル)プロピオン酸 <i>n</i> -オクタデシル
管理濃度・許容濃度	管理濃度	設定されていない	設定されていない
	日本産業衛生学会	設定されていない	設定されていない
	AGCIH (TLV-TWA)	設定されていない	設定されていない

設備対策

ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

適切な呼吸器保護具を着用する。

手の保護具

必要に応じて耐油性保護手袋を着用する。

眼の保護具

飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用する。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的および化学的性質

物理的状态

液体

色

透明

臭い

わずかな石油臭

融点/凝固点

-18℃

沸点、初留点及び沸騰範囲

295℃

可燃性

データなし

爆発下限界および爆発上限界

データなし

可燃限界

データなし

引火点

>200℃

自然発火点

360℃

分解温度

データなし

PH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

水に不溶

n-オクタノール／水分配係数

データなし

流動点

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び相対密度

0.864

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性および反応性

反応性	
化学的反応性	常温で安定
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混合接触危険物質との接触を避ける。
混合接触危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、一酸化炭素が生成される可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	ラット LD50 > 15000 mg/kg
急性毒性（経皮）	ラット LD50 > 5000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	GHS定義における液体である。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚刺激性に区分する情報はない。長時間または繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるので注意すること
眼に対する危篤な損傷性・眼刺激性	ウサギを用いた実験により、軽度の刺激性が生じると記述されている報告がある。
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	区分2: CAS登録番号: 2082-79-3 (含有率=2% 出典: NITE) 分類できない: CAS登録番号: 64742-54-7 (含有率=98% 出典: NITE) 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を98%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 濃度限界未満であるが、JIS Z 7253における「SDSを作成する濃度」以上の成分 CAS登録番号: 2082-79-3 (区分=区分2 含有率=2% 出典: NITE)
生殖毒性・授乳影響	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	40℃で測定した場合の動粘性率が20.5mm ² /sまたはそれ以下の炭化水素であり、ヒトの鉱油の摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	情報なし
水生環境有害性 (長期間)	区分2: CAS登録番号: 2082-79-3 (含有率=2% 毒性値 (魚類) = なし 毒性値 (甲殻類) = なし 毒性値 (藻類) = なし 急速分解性=無 出典: NITE) 分類できない: CAS登録番号: 64742-54-7 (含有率=98% 毒性値 (魚類) = なし 毒性値 (甲殻類) = なし 毒性値 (藻類) = なし 急速分解性=不明 出典: NITE) 方式1: 実施不可 方式2: 実施不可 方式3: 加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が20%であり、濃度限界 (25%) 未満のため、区分に該当しないに該当。 方式1=実施不可、方式2=実施不可、方式3=区分に該当しないより区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を98%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への 有害性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 投棄禁止 埋立処分を行う場合にはあらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。 または燃焼する場合は安全な場所で、かつ燃焼または爆発によって他に危害損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処理をすること 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当しない
国内規制	下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。 消防法 第四類危険物 第四石油類 危険等級Ⅲ 船舶安全法 非危険物 (個別運送及びバラ積み運送に於いて) 非危険物
陸上	
海上	
航空	
特別の安全対策	運送容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。容器が著しく摩擦や動揺を起こさないように運搬する。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないよ

その他

うに積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと
その他関係法令の定めるところに従う。

1 5．適用法令

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法)

	該当しない	
労働安全衛生法	法第57条	名称等を表示すべき危険物及び有害物
	施行令第18条別表第9	
	法第57条の2	名称等を通知すべき危険物及び有害物
	施行令第18条の2別表第9	
	法第57条の3	リスクアセスメントを実施すべき危険有害物

毒物及び劇物取締法

該当しない
第四類 第四石油類 危険等級Ⅲ

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 (化審法)

	該当しない	
海洋汚染防止法	油分排出規制	
航空法	施行規則第194条危険物告示別表第1	その他の有害物質
下水道法	鉱油類排出規制	
水質汚濁防止法	法第2条5項	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制	
危険物船舶運送及び貯蔵規則	危規則第3条危険物告示別表第1	有害性物質

1 6．その他の情報

その他の引用文献など

- 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 (OEL s)
- 米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)
- 原材料メーカー発行安全データシート
- NITE：独立行政法人 製品評価技術基盤機構
- JIS Z 7252:2025
- JIS Z 7253:2025

記載内容は現時点で入手できる資料データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。注意事項は通常の取扱いを対象とし、また記載内容は情報提供であって保証するものではありません。危険・有害性の評価を絶対視する事なく。取扱いには十分注意してください。